

**HƯỚNG TỚI VIỆC BIÊN SOẠN LẠI
GIÁO TRÌNH GIẢNG DẠY TIẾNG NHẬT PHÙ HỢP VỚI ĐIỀU KIỆN
HỌC TẬP VÀ GIẢNG DẠY TIẾNG NHẬT TẠI VIỆT NAM
(GẮN KẾT VỚI CHƯƠNG TRÌNH ĐÀO TẠO SAU ĐẠI HỌC)**

VŨ THÚY NGÀ*

Trong thời kỳ hội nhập quốc tế mạnh mẽ như hiện nay, việc đào tạo ngoại ngữ nói chung và việc đào tạo tiếng Nhật ở Việt Nam nói riêng đang đòi hỏi phải có những đầu tư, cải tiến để đáp ứng các nhu cầu ngày càng mở rộng về giao lưu văn hoá, kinh tế, ngôn ngữ... của Việt Nam với các nước trên thế giới. Với nỗ lực kế thừa và phát huy truyền thống giảng dạy ngoại ngữ có uy tín của trường, Khoa tiếng Nhật, Trường Đại học Hà Nội cũng đang không ngừng đổi mới và hoàn thiện các chương trình, giáo trình, phương pháp giảng dạy..., nhằm đào tạo nguồn nhân lực có tri thức góp phần thúc đẩy và mở rộng hơn nữa mối quan hệ tốt đẹp vốn có giữa hai nước Việt Nam - Nhật Bản và với bè bạn trên thế giới.

Trong bài viết này, chúng tôi đề cập đến vấn đề cải tiến giáo trình - một công cụ quan trọng giúp cho việc học ngoại ngữ đạt được kết quả tốt. Những kiến thức mà người học thu được qua sách vở, trên giảng đường chính là hành trang cần thiết cho hành trình chinh phục tương lai của họ. Việc lựa chọn được một cuốn giáo trình hay, phong phú về nội dung; tiện sử dụng, giàu hình ảnh minh hoạ có thể coi là thành công bước đầu giúp người học hứng thú tìm hiểu ngôn ngữ mình đã lựa chọn. Vì vậy, để giúp người học tiếp cận và nắm bắt được những kiến thức đó một cách chủ động, có hiệu quả cần sự nỗ lực của đội ngũ giảng viên trong việc tìm kiếm và cải thiện giáo trình phù hợp với thực tế và xu hướng của thời đại. Bài viết dựa trên những khảo sát, điều tra về thực trạng sử dụng giáo trình tiếng Nhật hiện hành, nêu lên những điểm tốt và những điểm còn chưa phù hợp, đồng thời đề xuất giải pháp nhằm hướng tới biên soạn lại giáo trình sao cho phù hợp với điều kiện dạy - học tiếng Nhật tại Việt Nam và xu hướng tiếng Nhật hiện đại.

Cuối cùng, người viết cũng hi vọng trong giáo trình được biên soạn lại sẽ đưa vào một số nội dung có gắn kết với những kiến thức nền tảng để người học có hứng thú tìm hiểu thêm ở chương trình sau đại học mà Khoa tiếng Nhật đang nỗ lực xây dựng.

* ThS., Khoa tiếng Nhật, Trường Đại học Hà Nội

ベトナムにおける日本語学習・教育の現状に即した 初級・中級・中上級レベルの日本語教材の再編集へ — 大学院向けのカリキュラムを含む —

はじめに

ここ数年間で、ベトナム－日本の両国の政府は多くの領域において両国間の友好関係を促進し、発展するために絶えずに努力してきた。ベトナムにおいて日本語を学習し、利用する人が急速に増加してきたのは両国間の相互理解及び協力の需要が益々強くなってきた結果である。日本語を体系的に教育する機関の一つであるハノイ大学も実践の要求に応じ、両国の発展に貢献できる日本語学習者を育成するために絶えずに改善し、努力し続けている。しかしながら、現在その役割及び使命を果たすため、各大学は日本語を教育する際、施設・設備、教員、経費の不足といった様々な困難に遭遇している。

本稿では、筆者が外国語を学ぶ際、きわめて大切なものである日本語教育の教材を改善することに言及したいと思う。まず、ベトナムにおける日本語教育各機関、とりわけハノイ大学において利用されている教材が日本語学習者及び日本語教育の現状に即しているかどうか検討する。次は、適切な教材を探し、利用することの困難さを述べる。最後に、日本語初級・中級・中上級レベルの教材再編集に向けるいくつかの意見を提出する。

また、再編集される教材には、学習者が更なる日本に関する知識を深められるよう、ハノイ大学・日本学部が大学院設置に向けて目指す大学院のコースに繋がる内容を持ついくつかのレッスンを入れたいものである。

1. ハノイ大学・日本学部において教育される科目についての概要

1973 年以降、ベトナム国教育訓練省のご指導及びご支援をいただいていると共に、ハノイ大学・日本学部は絶えずにベトナムにおける日本語利用の動向を考慮し、日本語を学ぶ人数を増やすために努力し続けてきた。また、当校の学生が卒業後、すべての領域における様々な仕事を担当することができるよう、当学部の教師たちは自らが担当する各科目を改善するため、頻繁に知識を身につけ、教育方法を革新せねばならない。

現在、当学部は日本語演習、音声学、語彙学、日本事情、日本文学、翻訳・通訳理論、文法、ビジネス日本語、翻訳・通訳といった科目を教育している。こうして日本語を使う能力を教育すること以外、当学部は学生に日本社会や日本人などに関する知識を与えたり、基本的な研究の概念もを教える。完璧

とは言えないが、教育用の教科書として選択され、利用される資料・教材は殆ど学習者の能力に相応しいものと思われる。

利用されている教材については基礎日本語教育という初級レベルから中・上級レベル及び専攻的な科目まで基本的にそれぞれの科目の教育内容に適切すると思われるものを選んだが、文法・文学・翻訳といった科目を教えることに適切する資料や教材などがあまりないという困難もある。したがって、現在、教師たちはいろいろ工夫し、教育するための資料を自作せねばならないとのことである。一方、日本語演習といった実践的な科目を勉強する熱心さに対して、文法・音声学・語彙学といった高いレベルを要求する科目は基本的に難しいから、熱心に勉強する学習者はあまりいないという事実がある。これは学習者の研究能力を発展することに役立つ科目だから、大学院におけるコースなどで学生の日本語を深めたがっている気が出せるように、どうすればいいかはハノイ大学の教師たちにとってはチャレンジの一つであろう。

2. 日本語学習・教育の現状に即した初級・中級・中上級レベルの日本語教材の再編集へ

当学部の教師たちはいろいろ探し、いいと思っている教材を選んだにもかかわらず、教育の過程においては、不適切な点を見つけ出してきた。利用されている教材が日本語学習者及び日本語教育の現状に即しているかどうかをよく理解できるように、調査を行った。

2.1. 学生からの調査

まず、教材を直接に受け入れる者として 200 名の学生（2・3 年生）を対象し、以下のような調査アンケートを行った。

教材についての調査アンケート	
「みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ」及び「ニューアプローチ中級・中上級日本語」	
1. みんなの日本語Ⅰという教材についてのご感想	よい 90% あまりよくない 10%
* 選んだ理由をお聞かせください（各レッスンの内容、文法の導入など．．．）	
<u>よいと考えた理由</u> ：各レッスンの内容が殆ど実践的な場面につながるので、使いやすい。文法の導入も簡単で、文法の量があまり多くない。	
<u>あまりよくないと考えた理由</u> ：各レッスンとの文法の繋がりは時々ロジック的に配置されていない。例えば、たくさん文法があるレッスンはあるが、1, 2 文法しかないレッスンがあります。	

* 第7課には「あげる」、「もらう」という文法があるが、関連ある「くれる」という文法を入れない。

- 先生方は紹介しませんか? はい ☐ 70% いいえ ☐ 30%
- その三つの文法をいっしょに教えたほうがいいと思いますか? はい ☐ 99%
- * 「Vます」から「Vて」に変える時、何の困難に遭ったでしょうか?
- 覚えにくい ☐ 80%
- 辞書型（Vる）から勉強したほうがいいと思いますか? ☐ 99%

*そのほか、みんなの日本語Ⅰの教材を学ぶ時の不適切な点を教えてください。

→ 関連のある文法（から、て型、あげる・くれる）が比較しやすいため、近く並べたほうがいいし、それらの差別について教師からのもっと詳しく説明してほしい。

2. みんなの日本語Ⅱという教材についてのご感想 よい ☐ 80% あまりよくない ☐ 20%

* 選んだ理由をお聞かせください（各レッスンの内容、文法の導入など．．．）

よいと考えた理由： 同上

あまりよくないと考えた理由： 文法は量が増えるとともに、より難しくなります。特に同じ意味を持っている文法が（そう・よう・みたい）多いので、区別しにくい。練習時間があまりない。

* 自動詞形「第29課」と様態動詞形「第30課」を学ぶ時、何の困難に遭ったでしょうか?

→ この二つの形は近過ぎるので、間違えやすい。もう少し合間を置いたほうがいい。
覚えにくい・使いにくいから練習時間を増やしたい。

*そのほか、みんなの日本語Ⅰの教材を学ぶ時の不適切な点を教えてください。

尊敬語・謙譲語の使い方が難しいのに、最後に紹介しますので、練習時間が殆どない。

*追加教材（読解・聴解・作文・会話）についてのご感想

- 勉強した文法を補助し、役立つ。 ☐ 90%
- 読解編・聴解編が最後まで教えてくれないから、 ☐ 10%
- 自分で理解できないことが多い。もったいないと思う。
- 会話はロールプレイ型で学んだら面白いが、なんだか実際に使いにくいと感じる。 ☐ 50%

* ベトナム語で説明してある教材で勉強したいですか? はい ☐ 60% いいえ ☐ 40%

選んだ理由をお聞かせください?

「はい」と答えた理由： 文法をもっと詳しく理解したい。また、準備しておくことができる。

「いいえ」と答えた理由： 先生がいるから、そんなに必要はない。

3. ニューアプローチ中上級という教材についてのご感想： よい ☐ 32% あまりよくない ☐ 60%

* 選んだ理由をお聞かせください（各レッスンの内容、文法量、文法の導入など．．．）

よいと考えた理由：各レッスンの内容がかなりいいです。同じ文法が一緒に出ますので、比較・対照することができます。

あまりよくないと考えた理由：各レッスンの内容があまり面白くない。初級に比べて、文法の量が多すぎて、ショックした。また、短い時間で同じ文法をたくさん勉強するので覚えにくいし、よく使うことができません（オーバーロード）。練習時間や宿題チェックの時間があまりない。

***追加教材（読解・聴解・作文・会話）についてのご感想**

- 読解の教材は漢字が多いし、文法もかなり難しい（2年生のご意見）。 60%
- 聴解の教材は難しい（2年生のご意見）。 30%
- 他の意見 10%

*** ベトナム語で説明してある教材で勉強したいですか?** はい 65% いいえ 30%

*** 選んだ理由をお聞かせください?**

「はい」と答えた理由：同じ文法が多くて、ちゃんとわからない文法があるので、ベトナム語で説明してあるものがあれば、役立つと思います。

「いいえ」と答えた理由：中級だから日本語で理解しなければならない（でも、ちゃんとわからない文法があるのは事実です）

4. ニューアプローチ中上級という教材についてのご感想 よい 72% あまりよくない 28%

*** 選んだ理由をお聞かせください（各レッスンの内容、文法量、文法の導入など...）**

よいと考えた理由：各レッスンの内容がいいです。同じ文法が一緒に出ますので、比較・対照することができます。日本語能力試験1・2級に出る文法、文字・語彙が多くて、役に立てる。

あまりよくないと考えた理由：各レッスンの文法の量が多すぎて、短い時間で覚えられないし、練習時間や宿題チェックの時間があまりない。

***追加教材（読解・聴解・作文・会話）についてのご感想**

- 読解の教材はかなり難しいが、いいと思う。 60%
- 聴解の教材は面白くない、中上級で学んだ文法に補助しない（ニュースで学ぶ日本語） 78%
- 他の意見 10%

*** ベトナム語で説明してある教材で勉強したいですか?** はい 15% いいえ 85%

*** 選んだ理由をお聞かせください?**

「はい」と答えた理由：同じ文法が多くて、ちゃんと覚えられないから。

「いいえ」と答えた理由：中上級だから日本語で説明して、学んだらいいと思う。

***他の意見**：文法の量がちょうどいい教材で勉強したい。今の勉強時間で、文法の量を減らして、練習時間を増やしたいなど。

調査からわかるように、教材を再編集することは必要であると思われる。なぜなら、教育している過程には教育者は学習者の惑いを見つけたのである。例えば、「Vます形」から「Vて形」に変えることを教育している際、同じ言葉“おきます”でも「Iグループの置きは→置いて」と変化する場合、「IIグループの起きは→起きて」と変化せねばならない。あるいは同じ音でも「Iグループの“よびます”は→よんで」と変化するが、「IIグループの“あびます”は→あびて」と変化することになる。こういうふうに教えると、学生は混乱になり、間違いやすいと見られる。更に、辞典を引く時、「Vます形」から引くことができないので、再編集する教科書には「Vる形」から進めばいいと思われる。

学習者が効果的に勉強するため、彼らのご意見に耳を傾け、迅速で適切に教材を整理することも必要であると思われる。学習者に無理をさせると、不快な心理を与え、学習者の日本語を勉強する興味をなくす恐れがある。一方、学生がより難しいことに接近するために、教師たちは一番わかりやすい教育方法を出すように努力せねばならないと思われる。また、ベトナムにおいて日本語を勉強することは日本において勉強する環境と違っているため、教科書には日本生活の実践につながる内容やイラストなどを多めに入れ、聴解・会話授業の時間量が増える必要があると思われる。

2.2. 教師からの調査

その他、教材の再編集は実現可能があるかどうかかわかるように、筆者は当学部の先生方の協力をいただき、教育者の観点からもの意見を集めてきた。調査を通じて、以下のようなことが分かってきた。

- ・ 基礎的日本語教育の教材としての「みんなの日本語 I・II」の巻は漢字・読解・聴解などの補助教材も教師ための手引きもあるので、かなり評価されている。ただし、順序通り、ロジック的に整えることはしっかりされていないとみられている。たとえ、「第1課からひらがなの他、カタカナ・数字・漢字が混用され、文法的にも後段で教える用法が混在する」（H先生のご意見より）、“「ます形」から「て形」への変化し方を教える際、学習者が受け入れにくい、覚えにくいと見られる」、あるいは「形容詞」と「動詞」との結び方を入れるのは遅いから会話練習の際、学生たちの言葉遣いが限られている（13課から）」、教科書に使ってある言葉は古くなってしまったものもある”といった意見が出た。

- ・ 補助教材は殆ど学生の学んだ文法を強化することに役立つと見られますが、実践にそんなにつながらない面も存在している。「らくらく日本語ライ

ディングという教科書は学生に書くのに興味を齎せ、楽しい授業ができる反面、作文を構成する力を養うにはやや不十分か。」（A先生の意見より）。

したがって、学生に勉強する興味を齎すと同時にそのスキルを発揮できる力を養うための教材を選択することは当学部の当面の問題であると思われる。

- ・ 中級段階としての「ニューアプローチ中級」の巻は学習者の感想に対して、担当する教師たちによく評判されている。たとえ、“文法の説明し方が分かりやすい、練習長も付いているから学生にいいと思われる”。上述した学生の意見と教師の意見を比較すると、この二つの対象の考え方や受け入れ方は全く違うとわかる。

- ・ 「ニューアプローチ中上級」の巻は日本語能力試験 1・2 級に出る文法が多いが、殆ど固い表現であり、書き言葉なので会話の実践には限られる。更に、各レッスンの量も多い、練習長が付いていないから、学生に説明すること及び練習問題を準備することも時間がかかり、統一性が欠かせると思われる。

- ・ 補助教材について、読解巻「楽しく読む初級」・聴解巻「毎日の聞き取り plus40 上」は学生の能力に少々無理だと担当する教師たちも実感できるが、カリキュラムの要求のため、教師たちはなるべく学生たちが受け入れやすいように努力せねばならない。ただし、長期的にみれば、適切な調整が必要であると思われる。

3. 今後の課題及び大学院に向けたカリキュラム作成の構想

大学生に日本語を教えるが、「あ・い・う・え・お」から教えるという特徴を持つので、初級・中級レベル以上の日本語を詳しく教育すること以外、その年齢に合い、体系的な知識を教育することも大切である。したがってその要望に合う教材を再編集することはすべくことである。ただし、それが現実になるためには当学部の教師たちの高決心が必要であるとともに、日本語教育機関といった日本側からのサポートも不可欠である。

なぜなら、日本語は文法・聴解・会話・読解・作文といった様々なスキルに分けられ、各スキルは何人の教師が担当することになるので、体系的な教材部の選択を目指す教師たちとの連結は非常に大切だと思われるのである。具体的に言えば、共同研究で教師たちは責任を持ち、授業相互参観を行った上に討論したり、意見交換をしたりすればいいと思われる。そうすると再編集される教材は統一性があり、最初の段階から次の段階へのつながりがスムーズになるとと思われる。何よりも大切なのは学生に系統的・連続的に勉強する感覚を与えるだろうと思われる。

一方、適切な教材部を作成できるように、参考教材・資料が不可欠なものであるが、現在、当学部においては最新資料・教材を手に入れるのは難しいと

見られる。また、他の日本語機関から教材・資料を借り、コピーすることは不便であり、著作権に違反する恐れもある。したがって、日本の組織及び日本語教育機関からのご支援なりご助言をいただければ、きっとベトナムにおける日本語学習・教育の現状に即した初級・中級・中上級レベルの日本語教材の再編集が実現できると思われる。

また、学生が卒業後、多分野において日本語を利用し、活躍できる目標を達するために、最初の年度から学習者の勉強熱心さが燃えているうちに、基礎日本語を教えること以外、学習者が慣らせるように、理論的なレッスンをいくつかを教材に入ればいいたろうかと思われる。ただし、低学年向けのレッスンなので、内容を3つにレベル分けしているべきである。すなわち、まったくの「基礎」（すべての学生がマスターすべき事柄）、「学習を進めるもの」（もっと力をつけたい学生がマスターすべき事柄）、そして「自由学習」（特別な興味を持っている学生向け）である。こうすると、学習者に一般的な知識を与える一方、好奇心や動機を与え、未来に学んだことを更に深めるチャンスを広めるだろうと思われる。ハノイ大学・日本学部が大学院設置に向けて目指す大学院のコースは学習者が日本のことに関する自らの知識を更に深める野心を実現することを支援すると期待している。

終わりに

教材を再編集することは一朝一夕でできることではないが、ベトナムにおける日本語発達の将来のため、このアイデアが日本側の日本語専門教育機関をはじめ、様々な組織・団体・日本語の教育者に応援し、サポートしていただけると期待している。様々な方々のご関心及びご協力によりベトナムにおける日本語学習・教育の現状に即した日本語教材ができると思われている。また、ハノイ大学・日本学部が大学院設置に向けて目指す大学院のコースは系統的・専攻的及び高いレベルで日本語を更に発展し、多くの領域における日本ーベトナム両国間の友好関係を更に促すことに貢献する研究者・教育者を育成できるように、当学部の本来の能力を発揮し、絶えずに革新すると期待されている。

参考文献

- 『ABC's of Teaching with Excellence B.G.Davis, L. Wood and R. Wilson Teaching Innovation and Evaluation Services, University of California 』
- 『大学授業の心得』（S.G. クランシ、1998）
- 『大学力を創る：FD ハンドブック』（大学セミナー・ハウス編、1999）
- 『現代の大学院教育』（市川昭午・喜多村和之編）
- 『大学カリキュラムの再編集』（清水畏三・井門富二夫編）